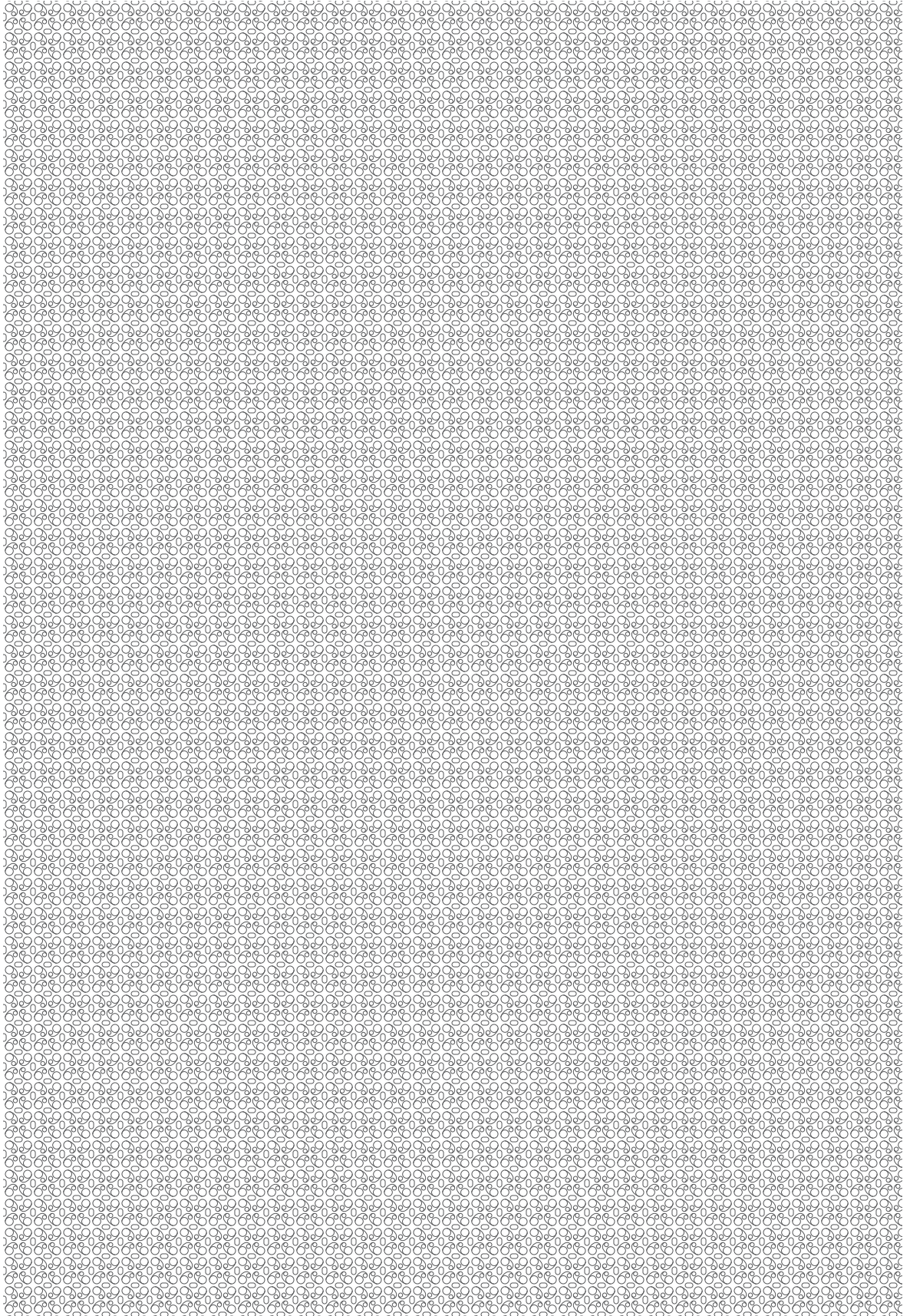


## 2026年度入学試験問題

# 世界史

(試験時間 10:30～11:30 60分)

1. この問題冊子が、出願時に選択した科目のものであることを確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙には、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類があります。
3. 解答は、必ず解答欄の枠内に記入もしくはマークしてください。解答欄以外への記入およびマークはすべて無効となります。特に、記述解答用紙の採点欄に解答を記入しないよう、注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、一度マークした箇所を修正する場合、しっかりと消してください。消し残りがあると、解答が無効となることがあります。また、消しくずを残さないでください。
5. 解答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。また、マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きに使用しないでください。
6. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入・マークしてください。未記入や記入・マークミスなどがあった場合は、当該科目の解答は無効になります。



I つぎの文章は、アフリカの歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。(34点)

アフリカは人類発祥の地であり、地球の陸地面積の約2割、今日の世界人口の15%あまりを占めている。アフリカの北部ではナイル川流域でエジプト文明が興り、前3000年ごろには統一国家が成立した。やがてローマ帝国が拡大すると地中海沿岸はその版図となった。エチオピア高原ではアクスム王国が象牙や金の輸出で繁栄し、4世紀に( 1 )を国教とした。

サハラ砂漠以南に目を向けると、西アフリカで成立したガーナ王国では8世紀以降、イスラーム国家との金や岩塩を扱う交易が盛んになった。13世紀以降にはムスリムを支配者とするマリ王国・ソンガイ王国が成立し、ニジェール川沿いに位置する両王国の中心的都市、トンブクトゥには知識人が集まって学問・文化が栄えた。また、アフリカ東海岸にもムスリム商人がインド洋交易を通じて訪れ、イスラームの受容が始まった。

15世紀以降にはヨーロッパ諸国の対外進出が本格化し、アフリカにも及んだ。その先頭になったポルトガルはアジア航路の開拓を目指して大西洋を南下し、喜望峰に到達してアフリカ大陸の南端を確認した。そして1498年にはインドに到達してヨーロッパとインドを直結する航路が開かれた。

アフリカの歴史に暗い影を落とすのが奴隷貿易である。16世紀以降、西アフリカに拠点を築いたヨーロッパ諸国によって展開された大規模な奴隷貿易は、大西洋三角貿易と呼ばれる貿易形態の一部を成していた。奴隷となったアフリカの人々はアメリカ大陸やカリブ海に送られ、過酷な労働に従事させられた。奴隷として送り出された人々は数千万人に上り、アフリカ社会は深刻な打撃を受けた。

19世紀半ばにはヨーロッパ人によるアフリカ内陸部への探検が進められ、また、風土病であるマラリアの特効薬が開発されたこともヨーロッパ人のアフリカ進出を加速した。( 2 )会議ではコンゴ川流域に広がるコンゴについてベルギー国王による私有が認められたほか、ヨーロッパ諸国によるアフリカ進出の原則の取り決めも行われ、アフリカ分割は一気に進んだ。その結果、20世紀はじめにはエチオピアと( 3 )を除いてアフリカ全域がヨーロッパ諸国の支配下におかれた。

一方で、こうした動きに抵抗する運動が19世紀からアフリカ各地で起き、第一次世界大戦後には世界的な民族運動の波がアフリカにも及んで自治や独立を目指す組織が設立された。第二次世界大戦後には植民地から独立を果たす国が増え、アジア=アフリカ会議（バンドン会議）<sup>(e)</sup>にはアフリカからもエジプトやエチオピアなどが参加して新興独立国の連帯を掲げた。1956年にはエジプトの指導者、ナセルが（4）の国有化を宣言したことに對して、その管理権を持っていたイギリス・フランスが（5）を誘ってエジプトに對して軍事行動を起こした。しかし、アメリカがこれに同調しなかったことや国際社会からの強い批判を受けて3カ国は撤兵を余儀なくされ、植民地主義が力を持った時代の終わりを印象付けた。

1960年はアフリカで17の独立国が誕生して「アフリカの年」と呼ばれ、1963年にはアフリカ統一機構（OAU）が結成されてアフリカ諸国の連帯や旧植民地宗主国による経済的支配の克服などを掲げた。新たに独立したアフリカ諸国は次々と国連に加盟し、その数が多いこともあって大きな勢力となった。アフリカをはじめ発展途上国の声<sup>(f)</sup>が反映されたのが南北問題の提起で、その是正を目指して国連貿易開発会議（UNCTAD）が発足した。

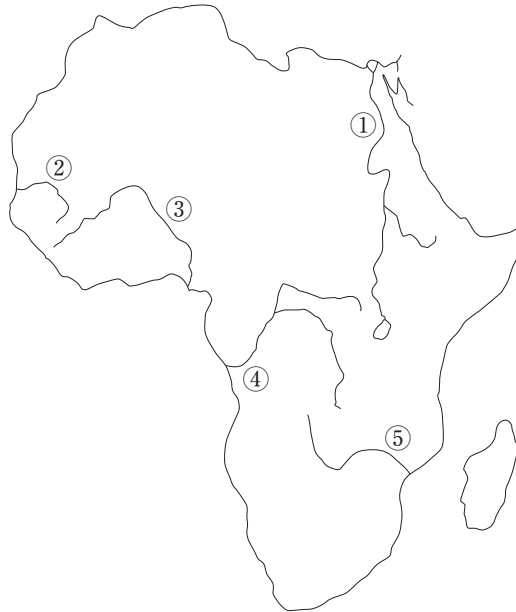
その一方で、アフリカの国境は民族や部族の生活圏を無視して宗主国の都合で引かれ、独立後の国家<sup>(g)</sup>の統合が困難に陥ることも少なくなかった。また、紛争も絶えることがなく、旧植民地宗主国や米ソの干渉も混乱や紛争長期化の一因となった。

南アフリカ共和国では国際的な批判が高まる中でも、少数の白人が大多数の黒人など非白人を極端に差別し、支配するアパルトヘイト（人種隔離政策）がつづいていた。しかし、反アパルトヘイト運動や国際的圧力を受けて1991年にアパルトヘイト諸法は撤廃され、その後、反アパルトヘイト運動の指導者だった（6）が大統領に就任した。

アフリカでは冷戦終結後も紛争が多発し、民族間で虐殺の起きたルワンダのほか、ソマリア・シエラレオネ・スーダンなどでも内戦が起きた。また、モノカルチャー農業<sup>(h)</sup>の影響もあって、穀物などの食料自給率が低い国も多く、ロシアによるウクライナ侵攻でウクライナからの穀物輸入が激減し、苦境にあえぐ国も出ている。とはいえアフリカは特にサハラ砂漠以南で人口増加が著しく、諸課題を解決して今後、大きな発展を遂げる<sup>(i)</sup>ことが期待されている。

設問1 空欄（ 1 ）～（ 6 ）に入るもっとも適切な語句は何か。記述解答用紙に記入しなさい。

設問2 下線部(あ)～(う)に該当する河川はどれか。地図上の①～⑤の中からもっとも適切なものを1つずつ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。



設問3 下線部(a)について。アフリカ東海岸の歴史に関する記述として誤っているものはどれか。2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 西アジア各地から交易のために商人が訪れ、マリンディなどの港市が発達した。
- ② アラビア語の影響を受けたスワヒリ語が共通語として用いられるようになったが、今日ではほとんど使われていない。
- ③ ムスリム商人はダウ船と呼ばれる船を操って交易ネットワークに参加した。
- ④ ヨーロッパ諸国による奴隷貿易とは異なり、ムスリム商人による貿易で奴隷が取り引きされることはほとんどなかった。
- ⑤ 中国の陶磁器は東アフリカまで運ばれたが、積み荷の陶磁器は商品であり、また船のバランスをとる役割も果たした。

設問4 下線部(b)について。ヨーロッパ諸国の動向に関する記述として誤っているものはどれか。2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ポルトガル出身のマゼラン（マガリャンイス）はスペイン王の支援を受け、南アメリカ大陸の南端を通過して太平洋の横断に成功したが、フィリピンで戦死した。
- ② ポルトガル商人は香辛料の産地である東南アジアへの進出を目指したが果たせず、インドのゴアに拠点を築くことになった。
- ③ スペインが征服した中南米でポトシ金山などが発見され、大量の金がヨーロッパに供給された。
- ④ 16世紀の時点では、ヨーロッパの対アジア貿易はつねに赤字だった。
- ⑤ 17世紀以降にはオランダやイギリスもインド洋に進出したため、ポルトガルはブラジルなど大西洋での交易に力を注ぐようになった。

設問5 下線部(c)について。奴隷貿易に関する記述として誤っているものはどれか。2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 奴隷貿易の非人道性に対する非難は各国で見られたものの、莫大な利益を生み出すことから、イギリスで奴隷貿易禁止法が制定されたのは20世紀初頭のことだった。
- ② 西アフリカではベニン王国のように奴隷貿易に依存する国が出現した。
- ③ 奴隷貿易を一部とする三角貿易の富で大きく成長したイギリスの都市では、タバコや茶の消費が急増した。
- ④ アフリカからアメリカに向かう航路は「中間航路」と呼ばれたが、無理に積み込まれた奴隷は水不足や感染症も相まって航海中の死亡率が高かった。
- ⑤ 伝統的な交易拠点だった内陸部サハラ都市や東アフリカの港市では奴隷貿易の積み出しによって経済が再び活性化した。

設問6 下線部(d)について。ヨーロッパ諸国によるアフリカ進出に関する記述として正しいものはどれか。2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ともにアフリカ進出を加速させたイギリスとドイツ両国は、ファショダ事件で衝突することになった。
- ② アフリカ進出の原則として、現地のさまざまな民族の存在は無視して、最初に実効支配した国が領有できることが承認された。
- ③ イギリスは南アフリカのダイヤモンドや金を目的に、フランス系であるブル人との間で南アフリカ戦争を引き起こした。
- ④ ドイツ領南西アフリカ（現在のナミビア）ではヘレロ人が蜂起したがドイツに鎮圧され、その8割近くが殺害されたと推定される。
- ⑤ ポルトガルは交易拠点を構築していたマダガスカルを19世紀に植民地とした。

設問7 下線部(e)について。アジア=アフリカ会議（バンドン会議）とその後の展開に関する記述として誤っているものはどれか。2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① アジア=アフリカ会議の開催が提唱されたのは、セイロン（現在のスリランカ）・インド・パキスタン・トルコ・タイの首脳が参加したコロombo会議であった。
- ② 日本もアジア=アフリカ会議への参加を検討したが、アメリカが難色を示したことから断念した。
- ③ アジア=アフリカ会議では中国とインドが提唱した平和五原則をさらに具体化した平和十原則が発表された。
- ④ アジア・アフリカの国々を中心に冷戦体制を批判し、東西両陣営のいずれにも属さない第三勢力が形成されて非同盟諸国首脳会議を発足させた。
- ⑤ 非同盟諸国首脳会議にはラテンアメリカの国々も参加し、アジア・アフリカとの連帯が掲げられた。

設問8 下線部(f)について。南北問題に関する記述として誤っているものはどれか。

2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 世界の北側に豊かな先進工業国が多く、南側に貧しい発展途上国が多いことから両者の経済的格差を南北問題と呼ぶようになった。
- ② 従属理論とは先進国からの援助に依存してでも発展を目指すべきだという考え方である。
- ③ 発展途上国の輸出を増やすために世界銀行や先進国から提供された借款は、累積債務となって発展途上国を苦しめることも少なくなかった。
- ④ 輸出品の生産に特化する輸入代替工業化を目指した国もあったが、成功することは難しかった。
- ⑤ 南の国々の間では、自国の資源を自らの主導で開発、管理して経済的自立を目指す資源ナショナリズムが強まることになった。

設問9 下線部(g)について。独立後のアフリカ諸国に関する記述として正しいものはどれか。2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① コンゴでは独立直後から内戦が起こり（コンゴ動乱）、初代首相のエンクルマ（エンクルマ）は反対派に殺害された。
- ② アフリカ統一機構（OAU）にはアフリカの独立国の大半が加盟したが、アパルトヘイトをとっていた南アフリカは除外された。
- ③ アルジェリアでは石油産出地域である東部が独立を宣言したことからビアラ戦争が勃発し、多くの犠牲者を出した。
- ④ 南ローデシアでは白人による政権が人口の大多数を占める黒人を差別し、南アフリカでアパルトヘイトが廃絶された後もなお、その体制を維持した。
- ⑤ アンゴラ内戦にはキューバや南アフリカの軍も投入されるなど、実質的に米ソの代理戦争となった。

設問10 下線部(h)について。これはどのような特徴と目的を持つのか。これが形成された歴史的背景を含めて40字以上50字以内で記述解答用紙に記入しなさい。

設問11 下線部(i)について。冷戦終結後のアフリカに関する記述として誤っているものはどれか。 2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① エチオピア・アンゴラ・モザンビークなどではソ連消滅と前後して社会主義体制が終焉を迎えた。
- ② アフリカ統一機構（OAU）が発展改組されてアフリカ連合（AU）となったが、従来の域内紛争などでの不介入方針は維持されている。
- ③ 内戦が収束したりベリアでは選挙によってアフリカ初の女性の大統領が誕生した。
- ④ ルワンダは内戦で荒廃したが、その後、外資を呼び込むなどして着実な経済成長を遂げた。
- ⑤ 近年、順調な成長をつづけてきた新興国の代表がBRICSと呼ばれる国々だが、その中にアフリカの国は含まれていない。

Ⅱ つぎの文章（A～D）は、現在の衣服の主要素材の1つである綿<sup>めん</sup>の歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。なお以下において、「綿」とはワタから採った綿花を加工して作られる綿糸や綿布といった製品を指す。（33点）

A 5000年ほど前に、今日のインドやペルーではほぼ同時期に、綿花が糸の原料となることの発見があったと考えられている。当該地域の住民は、自給自足の農業の一環として、綿花の栽培を行った。ワタ属の植物は1000万年から2000万年にわたって地上で生育してきたと考えられているが、この植物もまた、獲得経済から生産経済へ<sup>(a)</sup>という人類の歴史の流れのなかで、人為的な営みのなかに組み込まれるようになったわけである。綿花栽培はその後、アジア・アフリカ・南北アメリカの各大陸で広がっていく。しかし、人に栽培されるようになってからも数千年は、そうした生産活動がワタの自然な生育地帯を越えて広がることはめったになかったという。また、家庭内消費のための家庭内生産が主流で、市場規模はごく限られたものであった。後にみられるような綿花の単一栽培もなかった。

とはいえ綿は、綿布にしまえば長期保存可能で運搬も容易であったこともあり、貴重な価値保存手段および交換媒体であった。そのため、西欧中心の世界の一体化が進められる前から、それはグローバル商品としての地位も確立し始めていた。特に19世紀にいたるまでそうした綿布の大陸間交易の中心にいたのがインドであった。既に前6世紀にはインド<sup>(b)</sup>の綿がエジプトと取引されており、そこからギリシア商人、のちにローマ商人によってヨーロッパに運ばれ、贅沢品<sup>すいぜん</sup>として垂涎<sup>すいぜん</sup>的となった。

現在では世界の綿業の中心地といえる中国だが、実はワタの木は自生種ではなく、インドから東に綿の知識が広がった結果、綿花栽培が定着することになる。元朝の時代には、従来使われてきたラミーや絹に事実上取って代わるまでに存在感が増し、明朝<sup>(c)</sup>において綿による納税が認められたこともあり、その重要性がさらに高まった。17世紀には世代性別を問わず綿製の衣類を身につけるようになり、その綿業の規模は18世紀にはインドに次ぐ世界第2位となった。

B 以上のような諸地域の動向のなかで、ヨーロッパはごく周辺の役割しかもって  
いなかった。もちろん、イスラーム教の広まりとともに綿は西ヨーロッパにも伝  
わっており、毛織物生産の長い歴史のあった北イタリアで12世紀から、続いてリ  
ネン生産の長い歴史を持つ南ドイツにおいて14世紀から、地中海東部沿岸産の綿  
花に依存した綿製品の生産が盛んに行われていた。しかしヨーロッパ全体でみれば  
特に目立つ存在ではなく、また、16世紀に貿易の中心地が大西洋地域に移り、地  
中海貿易の支配権がオスマン帝国に奪われることで、これらの綿業は失敗に終わっ  
た。

ヨーロッパでは長らく、亜麻（リネンの原料となる）や羊毛から作られた布が主  
流であり続けた。亜麻栽培は16世紀になるころにはヨーロッパ各地でみられるよ  
うになっており、特にリネン製品を大規模に生産していたのがドイツであった。当  
時の他の職業がそうであったように、リネン職人もギルドを組織していた。もっ  
とも、商人が地方の家庭に外国市場向けの安価な布の生産を担わせたため、ギルドは  
その機能を十分に果たすことができなかった。

そうしたなかで、そもそもリネンや毛織物が主流であった繊維産業の構造それ自  
体が、大西洋を舞台とする貿易圏の成立と、それに伴う新しい綿業の発展によって、  
急転回していく。一言でいえば、アメリカ大陸やアジアに進出しつつ、ヨーロッパ  
の人々が力を注いだのは、綿貿易のグローバルネットワークを暴力的に改変し我が  
物にすることであった。次第に綿業でインドに取って代わろうという意欲を抱いた  
イギリスにおいて、産業革命による生産性の飛躍的向上が達成された。イギリス綿  
業が発展した背景には、こうした技術的革新だけでなく、17世紀に展開されてい  
た保護主義的政策や、インド製綿織物の輸出によって既に海外市場を獲得していた  
ことがある。

しかしもう1つここで強調しておくべきは、それまで主流ではなかった働き方が、  
産業革命期に急速に広まったということである。<sup>(h)</sup>そうした働き方をする者が工場組  
織に大量に組み込まれたからこそ、工業化された綿業の発展があった。工場主に  
とってこれらの者は、生活の保障が必要ない点で繁閑に対応しやすく、その点では  
奴隷よりも利点があったとさえいえる。なお、なかでも割安な労働力として重宝さ  
れたのは、女性と子どもであった。これらの弱者の中の弱者が、心身の健康と寿命

を犠牲にするような環境で働き続けた。その境遇の劣悪さは、19世紀に各地で労働運動が盛んに展開された<sup>(i)</sup>ことが物語っている。

C 以上のようなヨーロッパでの綿業の発展を追うように、しかしそこではみられなかった綿業の新たな変異が、アメリカで登場する。アレクサンダー=ハミルトンの示した、安価な労働力としての女性と子どもの活用という方針に、イギリスから持ち込まれた技術<sup>(j)</sup>に基づく工業化した綿紡績が組み合わさり、商業的綿製品生産の時代が花開く。ヨーロッパと大きく異なるのは、綿花生産の劇的な成長である。そしてその伏線となっていたのが、新大陸での奴隷を使ったプランテーション経営の広がりであった。1793年のホイットニーによる綿繰り機の発明が契機となり、それから30年の間にアメリカでの綿花の栽培量は100倍以上にまで膨れ上がった。しかしそうしたアメリカの綿花の一大産地への成長を支えたのは、土地を疲弊させる単一栽培と、人間の尊厳を擦り減らす奴隷制度でもあった。奴隷制が廃止された後も、なお旧奴隷の人々を綿花栽培の労働に縛り付ける制度が展開された。こうしてもはや綿花栽培は、家庭内での小規模生産のような牧歌的情景とともに語れる事業ではなくなったのである。

D 一方、海の向こうで南北戦争が始まる頃までに、列強体制下のヨーロッパは綿花の供給をアメリカに依存するようになっていた。ヨーロッパ諸国<sup>(k)</sup>にとって、綿の紡織だけでなく綿花生産もその支配下で拡大しようとするのは、ある種自然なことであっただろう。南北戦争が始まって綿花供給が止まると、イギリスはエジプト<sup>(l)</sup>を綿花生産地として重視するようになったが、既に植民地支配を確立していたインド<sup>(m)</sup>では、その地方部を綿花の供給源にすべく統治を展開していく。すなわち、インフラ整備、法制度への介入、そして反発を抑え込むための警官隊の配備などにより、現地の農民を換金作物としての綿花栽培に従事せざるをえない状況に追い込んだ。価格競争力をつけたイギリス製品により仕事を奪われたインドの織り手たちは、専業の綿花農家にならざるをえなかった。こうして綿業の王者であったインドは、一転綿布輸入国になると同時に、綿花供給のためのプランテーションの地と化したのである。

第二次世界大戦後のインドの独立は、分離独立という形をとった点でガンディー<sup>(n)</sup>の思い描いたものではなかったが、経済的な独立のために推し進められた綿業の発展も彼の理念とは相反するものであった。既に戦前にインドに綿紡績工場は発達していたが、そうした工業化が独立後に奨励される。1980年代に織物産業が輸出に力を入れるようになった結果、労働力への需要も高まった。しかしその結果待っていたのは、若年女性が安価な労働力として紡績工場で一種の奴隷労働を強いられ、あるいは、多額の負債を負うことを余儀なくされている綿花農家の人々が自殺するというような、形を変えただけで、相変わらず人間の尊厳を踏みにじる生産体制の構築であった。環境への悪影響が懸念されている遺伝子組換え綿花が栽培され続け、衣料品生産工場により深刻な環境汚染が発生し、それらの過程で大量の水が消費されているという点で、環境面での懸念はより深刻になったようにさえ見える。こうして生産された綿製品が、<sup>(o)</sup>グローバルなアパレル産業を支えているのである。

日本の有名アパレル企業を含め、多くのグローバル企業が綿の供給を頼ってきたのが、インドと並ぶ綿業大国になった中国であり、中国政府の政策により中国の綿業の中心地に仕立て上げられたのが、新疆ウイグル自治区である。中国はかつてシルクロードの主要経路であったこの地に、農業に従事する兵士を組織して、1950年代<sup>(p)</sup>から綿花栽培を広げた。東部沿岸地域の賃金上昇を避けてベトナムやバングラデシュにグローバル企業の衣料品生産拠点が移転し始めたことを受けて、1990年代以降は、新疆の綿花農場近くにも工場が構えられるようになった。そこでの「安い労働力」が強制労働によって調達されているという批判が巻き起こったことは記憶に新しいが、大量の水消費による環境破壊も深刻な問題として指摘されている。

設問1 下線部(a)について。獲得経済から生産経済への移行に関する記述として正しいものには①を、誤っているものには②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- (a) 約9000年前の西アジアで稲作が始まり、これが日本にも伝わった。
- (イ) 農耕・牧畜に適した道具として磨製石器が用いられた。
- (ウ) 農産物についての記録のため、ヘブライ人が楔形文字を発明した。

設問2 下線部(b)について。前6世紀～前5世紀頃のインドにおける宗教に関する記述として正しいものには①を、誤っているものには②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- (あ) 仏教やジャイナ教が創始された。
- (い) マウリヤ朝の保護下でガンダーラ美術と呼ばれる仏教美術が開いた。
- (う) ラージプートにより巨大なヒन्दゥー教寺院が建立された。

設問3 下線部(c)について。明代の政治・経済に関する記述として正しいものには①を、誤っているものには②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- (あ) 里甲制を通じた治安維持や徴税など、社会全般への統制を強めた。
- (い) 紙幣(宝鈔)が発行されたことにより、銀による取引は行われなくなった。
- (う) 陶磁器や生糸が輸出され、日本などから大量の銀が中国に持ち込まれた。

設問4 下線部(d)について。中世ヨーロッパの政治・文化に関する記述として正しいものには①を、誤っているものには②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- (あ) コンスタンティノープルの奪還を大義とした軍事遠征が十字軍と呼ばれた。
- (い) ロンバルディア同盟やハンザ同盟のような都市同盟が登場し、君侯とならぶ政治勢力となった。
- (う) ビザンツ文明やイスラーム文明の影響もあり、西ヨーロッパで12世紀ルネサンスが起きた。

設問5 下線部(e)について。市場独占を目指した同職ギルドは、組合員に対して、商品の生産・販売について自由競争を制限していたが、具体的には何を行ったか。10字以上15字以内で記述解答用紙に記入しなさい。

設問6 下線部(f)について。15世紀から17世紀にかけてのヨーロッパ諸国の海外進出に関する記述として正しいものには①を、誤っているものには②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- (あ) スペイン人は中南米でアフリカからの奴隷を用いるエンコミエンダ制を導入した。
- (い) イギリスやオランダが貿易特許会社の東インド会社を設立した。
- (う) ポルトガルやオランダなどが、日中間の中継貿易の利益を得ようと争った。

設問7 下線部(g)について。当時のヨーロッパ諸国の通商政策に関する記述として正しいものには①を、誤っているものには②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- (あ) オランダで航海法が制定された。
- (い) フランスで王立マニユファクチュアの育成が進められた。
- (う) 当初は貿易差額主義の重商主義が採られたが、徐々に重金主義の要素も加わった。

設問8 下線部(h)について。この働き方は、従来主流ではなかったが、産業革命以降の資本主義社会の確立期に広まったものである。どのような働き方か。「交換」という言葉を用いて、10字以上15字以内で記述解答用紙に記入しなさい。

設問9 下線部(i)について。19世紀イギリスにおける労働運動に関する記述として正しいものには①を、誤っているものには②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- (あ) 団結禁止法が制定され、労働組合の反社会的活動によりやく制限が設けられた。
- (い) 一連の選挙法改正を経て、労働代表委員会（後の労働党）が結成された。
- (う) 運動の成果として工場法が制定され、深夜労働や15歳未満の者の労働が全面的に禁止された。

設問10 下線部(j)について。綿業にとって重要であった、イギリスにおける技術革新に関する記述として正しいものには①を、誤っているものには②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- (あ) ジョン=ケイによって飛び杼<sup>とびひ</sup>（梭）が発明された。
- (い) ワットによって蒸気機関が改良された。
- (う) グーテンベルクによって紡績機が実用化された。

設問11 下線部(k)について。19世紀後半のヨーロッパの政治に関する記述として正しいものには①を、誤っているものには②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- (あ) オスマン帝国を除く全ヨーロッパの君主が参加した会議により、ウィーン体制が成立した。
- (い) プロイセンは、オーストリアやフランスとの戦争を経て、ドイツ帝国の成立を主導した。
- (う) フランスでは革命的自治政府が樹立され、後の第三共和政の確立を主導した。

設問12 下線部(l)について。19世紀のエジプトに関する記述として正しいものには①を、誤っているものには②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- (あ) ナポレオンの遠征によりムハンマド=アリーが実権を失い、近代化が進められた。
- (い) エジプト=トルコ戦争と呼ばれる2度にわたる戦いが起きた。
- (う) イギリスの計画のもと、スエズ運河が完成した。

設問13 下線部(m)について。イギリスによるインド支配に関する出来事を古いものから順番に並び替えたとき、2番目と4番目に位置するものはどれか。1つずつ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① インド国民会議が結成された。
- ② イギリス東インド会社が解散した。
- ③ シパーヒーによる大反乱（インド大反乱）が発生した。
- ④ ザミンダーリー制やライヤット（ライヤト）ワーリー制が導入された。
- ⑤ 全インド=ムスリム連盟が結成された。

設問14 下線部(n)について。インドのイギリスからの独立過程に関する記述として正しいものには①を，誤っているものには②を，マーク解答用紙にマークしなさい。

- (a) ガンディーが「塩の行進」を組織するも，途中で参加者による警官殺害事件が発生したため中止された。
- (い) ヒन्दゥー教徒と仏教徒の対立を背景に，インド連邦とパキスタンの2国に分かれて独立した。
- (う) 独立後インドの初代首相となったモディのもとで，カーストによる差別の禁止など社会の近代化を目指す憲法が公布された。

設問15 下線部(o)について。環境問題についての国際社会の取組みに関する記述として正しいものには①を，誤っているものには②を，マーク解答用紙にマークしなさい。

- (a) 1970年代初めには環境を主題とする初の国際会議である国連人間環境会議が開かれたが，その後，日本では四大公害と呼ばれる環境破壊・健康被害が引き起こされた。
- (い) 国連環境開発会議（地球サミット）が開かれ，地球環境の保全と両立可能な「持続可能な開発」の理念の重要性が確認された。
- (う) 温室効果ガスの排出削減のために京都議定書やベルリン条約が締結されたが，アメリカはいずれの条約からも離脱した。

設問16 下線部(P)について。これ以降の中国の政治・経済に関する出来事を古いものから順番に並び替えたとき、2番目と4番目に位置するものはどれか。

1つずつ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 香港に国家安全維持法が導入された。
- ② 鄧小平による「四つの現代化」などの改革・開放路線が始まった。
- ③ GDPで世界第2位の経済大国になった。
- ④ プロレタリア文化大革命が始まった。
- ⑤ 中国が世界貿易機関（WTO）に加盟した。

Ⅲ つぎの文章は、アメリカの歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。(33点)

1775年、( 1 ) とコンコードでイギリス軍と植民地側民兵の武力衝突が起こると、アメリカ独立戦争が始まり、翌年、大陸会議は独立宣言を公布した。イギリスと<sup>(a)</sup>対立していたフランスやスペインも植民地側について参戦し、1781年に( 2 )<sup>(b)</sup>の戦いで敗北したイギリスは、1783年にパリ条約を結び、植民地の独立を認めた。1787年、( 3 ) で開かれた憲法制定会議は、アメリカ合衆国憲法(案)<sup>(c)</sup>を採択し、翌1788年、9邦の批准を得て発効した。1800年には、首都として( 4 ) が建設された。

初代大統領ワシントンはヨーロッパの国際政治に関与しない孤立主義政策を提唱し、それがその後長くアメリカ合衆国の外交の基本となった。19世紀のアメリカ合衆国<sup>(d)</sup>は、孤立主義政策を維持しつつ、内陸への発展、領土の拡大を進めた。大量の移民と<sup>(e)</sup>広大な国土、豊富な天然資源が相まって、アメリカ合衆国は大きな経済発展を遂げた。また、1820年代から30年代にかけては、民主化も進展し、白人男性すべてに選挙権を与える州が増えた。ところが、アメリカ合衆国の西方への拡大は、<sup>(f)</sup>奴隷制をめぐる北部と南部の対立も招き、1861年に南北戦争に至った。北軍は当初劣勢だったが、1863年に( 5 ) の戦いを制すると、以降は優勢を保った。「人民の、人民による、人民のための政治」というリンカンの言葉は、( 5 ) で行われた追悼式典の演説の中で登場した。1865年に北軍が南部の首都( 6 ) を占領して南部を降伏させ、南北戦争は終結した。

20世紀に入り第一次世界大戦が起こっても、当初、アメリカ合衆国は中立を保っていたが、1917年にドイツが無制限潜水艦作戦を宣言すると、同年、ドイツに宣戦した。第一次世界大戦後、アメリカ合衆国は債務国から世界最大の債権国に転じた。アメリカ合衆国は、工業力でも他を圧倒し、( 7 ) が世界金融の新たな中心に浮上し、繁栄の時代<sup>(g)</sup>を迎えた。ところが、1929年に( 7 ) の株式取引所で株価が大暴落し、世界恐慌<sup>(h)</sup>に発展した。特にアメリカ資本が支えていたドイツ経済は著しく悪化した。そのような状況のドイツでナチ党が政権を掌握し、1939年に( あ ) へ侵攻すると、( あ ) と安全保障条約を結んでいたイギリスとフランスはドイツ

に宣戦し、第二次世界大戦が始まった。フランクリン=ローズヴェルトは、孤立主義が有力な国内世論に配慮しながらも、1941年3月には武器貸与法を成立させてイギリスの支援を開始し、8月にはチャーチルと会談し、ファシズムと対決する決意と戦後の平和構想を明らかにする（い）を発表した。同年12月には日本が真珠湾を攻撃したことから、アメリカ合衆国は日本に宣戦し、まもなくドイツ、イタリアとも戦争状態に入った。1945年5月にドイツが、8月には日本が降伏し、第二次世界大戦は終結したが、戦後処理においてもアメリカ合衆国は大きな役割を果たした。1951年に、日本がアメリカ合衆国やイギリスなど48カ国と平和条約を締結したのは（8）においてであった。第二次世界大戦の終結前後から自由主義陣営と社会主義陣営の対立が生じ、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の直接戦争やヨーロッパでの戦争は回避されたものの、冷戦を背景とした戦争や紛争がアジアやアフリカで生じた。その1つがベトナム戦争であり、アメリカ合衆国は、ドミノ理論とよばれる考え方に<sup>(i)</sup>基づき本格的軍事介入を行った。<sup>(j)</sup>この戦争は長期化し、アメリカ合衆国の内外を問わず反戦運動を招くこととなり、財政にも深刻な打撃を与えた。

設問1 空欄（1）～（8）に入るもっとも適切な語句を、語群の中からそれぞれ1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- 語群： ① ニューオーリンズ ② ゲティスバーグ  
③ リッチモンド ④ ワシントン特別区  
⑤ ニューヨーク ⑥ シアトル  
⑦ サンフランシスコ ⑧ フィラデルフィア  
⑨ レキシントン ⑩ ヨークタウン  
⑪ デトロイト ⑫ ヒューストン  
⑬ シカゴ ⑭ ロサンゼルス  
⑮ ポートランド ⑯ サラトガ

設問2 空欄（あ）・（い）に入るもっとも適切な語句は何か。記述解答用紙に記入しなさい。

設問3 下線部(a)について。アメリカの独立に関連する記述として正しいものはどれか。2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ボストン茶会事件に対するイギリス本国の制裁措置を受け、植民地側は第1回大陸会議を開き抗議を行ったが、この時点で独立を主張する愛国派は少数であった。
- ② トマス=ペインの『コモン=センス』は植民地の世論を独立に導き、またカントが『純粹理性批判』の中で論じた抵抗権は、独立の理論的根拠を与えた。
- ③ 独立宣言を起草したジェファソンは後に第3代大統領となり、スペインからフロリダを購入し、農業発展の基礎を作った。
- ④ アメリカ独立戦争には、フランスからラ=ファイエットやサン=シモンが、ハンガリーからコシューシコが義勇兵として参加した。
- ⑤ イギリスによる海上封鎖を受けて19世紀に起こった米英戦争は、「第2次独立戦争」ともよばれるほど、アメリカ合衆国の経済的発展と自立を促した。

設問4 下線部(b)について。フランスとイギリスが戦った七年戦争（1756年～1763年）に関する記述として正しいものはどれか。2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① この戦争は、マリア=テレジアが起こしたもので、オーストリア継承戦争でプロイセンに奪われたシュレジエンを奪回した。
- ② この戦争で、フランスがプロイセン側についたことから、イギリスは、イタリア戦争以来、長らく対立関係にあったオーストリアと同盟した。
- ③ この戦争と並行し、北アメリカでは、フレンチ=インディアン戦争が起き、勝利したイギリスは、カナダとミシシッピ川以東ルイジアナを獲得した。
- ④ この戦争と並行し、インドでは、プラッシーの戦いが起き、東インド会社のクライヴが、フランスとベンガル太守の連合軍を破った。
- ⑤ イギリスは、国債による資金調達に加え、印紙法などの植民地に対する課税を強化する立法を行っていたため、この戦争を優勢に戦うことができた。

設問5 下線部(c)について。アメリカ合衆国憲法の制定とその後の修正に関する記述として誤っているものはどれか。 2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 合衆国憲法は議員定数について、上院は各州2名、下院は人口比例と定めるが、合衆国憲法制定当時、人口の計算上、黒人奴隷と先住民は除外されていた。
- ② 合衆国憲法は史上初めて三権分立を明文化した憲法であり、連邦政府と州政府が併存する連邦主義を採用した点に特徴がある。
- ③ 信仰・言論・武装・財産所有などの国民の権利を明記した条項は、合衆国憲法の制定当時は定められていなかった。
- ④ 20世紀前半に、合衆国憲法が修正され、酒類の醸造・販売・運搬・輸出入を禁ずる条項が設けられたが、後にこの条項を廃止する修正が行われた。
- ⑤ 第二次世界大戦後のウーマン=リブ運動を受けて、合衆国憲法が修正され、女性参政権が保障された。

設問6 下線部(d)について。この時代のアメリカ合衆国の内陸開発・領土拡大・対外政策に関する記述として誤っているものはどれか。2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① テキサスはメキシコの一部であったが、入植者を中心とする人々が独立を宣言し、アメリカ合衆国がこれを支援するとアメリカ=メキシコ戦争に発展し、勝利したアメリカ合衆国はテキサスを併合した。
- ② 多くの先住民は保留地への移住を強いられ、チェロキー族は「涙の旅路」とよばれる強制移動の途上で多数の死者を出した。
- ③ モンローは、南北アメリカ大陸とヨーロッパの相互不干渉をとねえ、ラテンアメリカ諸国における、クリオーリョとよばれる植民地生まれの白人の大地主を中心とした独立運動を事実上容認した。
- ④ 内陸のフロンティアが消滅すると、マッキンリーは、ニューフロンティア政策として海外進出を図り、米西戦争の結果、フィリピン・グアム・ハワイをアメリカ合衆国領とした。
- ⑤ アメリカ合衆国はアジアに対しては進出の姿勢をとり、ペリーが日本の浦賀に来航し開国を迫り、ジョン=ヘイが中国市場への進出をねらって門戸開放宣言を出した。

設問7 下線部(e)について。16世紀以降、北アメリカに渡った人々やその子孫に関する記述として誤っているものはどれか。2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 16世紀末から北アメリカに入ったイギリス人は、メイフラワー号で渡ってきたピルグリム=ファーザーズに代表されるような宗教的理由によるカトリック入植者が多かった。
- ② 連邦政府公有地に5年間定住して農業を行った者に土地を無償で与えるホームステッド法の制定や、カリフォルニアにおける金鉱の発見は、多くの移民を引き寄せた。
- ③ 大陸横断鉄道の建設には、クーリー（苦力）とよばれた、中国人などのアジア系移民が貢献したが、19世紀後半になると、中国人労働者移民排斥法が成立した。
- ④ 1870年代まではイタリアと東欧からの移民が主流だったが、1880年代以降は、ドイツとアイルランドからの移民が多数派となり、ユダヤ人もこの時期以降に大量に流入した。
- ⑤ 20世紀前半において、ワスパ（WASP）とよばれる白人がアメリカ社会の中心とされ、同じ白人であってもアイルランド系やイタリア系は差別される傾向があった。

設問 8 下線部(f)について。南北戦争とその前後の時代のアメリカ合衆国に関する記述として正しいものはどれか。2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 南部は綿花の生産・輸出を主要産業とし、奴隷制を支持して保護貿易を求めたのに対し、商工業が発達した北部は人道主義の立場から奴隷制に反対し、自由貿易を求めた。
- ② 北軍の勝利後、奴隷制を正式に廃止する合衆国憲法の修正が行われたことにより、ジム=クロー法とよばれる、南部諸州で制定されていた黒人の権利を制限していた法律は撤廃された。
- ③ 北緯 36 度 30 分以北には奴隷州をつくらないとするミズーリ協定が結ばれていたが、カンザス・ネブラスカ両準州を奴隷州とする法律が制定され、南北の対立が深まった。
- ④ 南北戦争後、地主側が耕地や農具などを提供し、小作農側がその代償に耕作し、収穫物を一定割合で地主におさめる、シェアクロッパー制度が普及し、多くの解放黒人が小作農となった。
- ⑤ 奴隷制の拡大に反対する共和党からリンカンが大統領に当選すると、奴隷州の多くはアメリカ合衆国を離脱し、アメリカ連合国を結成したが、アメリカ合衆国にとどまった奴隷州もあった。

設問9 下線部(g)について。第一次世界大戦後のアメリカ合衆国に関する記述として誤っているものはどれか。2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ウィルソンが設立を提唱した国際連盟には、上院の反対により、アメリカ合衆国は加盟しなかった。
- ② 大量生産・大量消費に基づくアメリカ的生活様式が広がり、ボクシングや野球等のプロスポーツやジャズが盛んになり、ラジオの定時放送が始まった。
- ③ 経済界の利益を重視する民主党政権が3代12年にわたって続き、自由放任政策と高率保護関税政策がとられた。
- ④ 秘密結社クー=クラックス=クリンの活動が活発化し、黒人やユダヤ教徒の排撃を提唱した。
- ⑤ 電灯や電信・電話などの新技術も導入されて国内市場の結びつきが強まり、急激な経済成長による拝金主義的な社会風潮は「金ピカ時代」とよばれた。

設問10 下線部(h)について。世界恐慌を受けて、フランクリン=ローズヴェルト政権が行った事柄に関する記述として誤っているものはどれか。2つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ニューディールとよばれる経済政策を、大統領が自らラジオ放送を利用して国民に説明した。
- ② 工業製品の価格協定を禁止し、公正な競争を促す全国産業復興法を成立させた。
- ③ ドイツの賠償と対米戦債の支払いの1年間停止を宣言した。
- ④ 金本位制から離脱し、管理通貨制度に移行した。
- ⑤ ワグナー法によって労働者の団結権と団体交渉権を認め、労働組合の結成を促した。

設問11 下線部(i)について。ベトナム戦争に関わる出来事を古いものから順番に並び替えたとき、2番目と4番目に位置するものはどれか。1つずつ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① サイゴンが陥落した。
- ② アメリカ合衆国が北爆を開始した。
- ③ 南ベトナム解放民族戦線が結成された。
- ④ ベトナム（パリ）和平協定が締結された。
- ⑤ トンキン湾事件が発生した。

設問12 下線部(j)について。アメリカ合衆国がベトナムに介入したのはなぜか。下線中の考え方に関連付けながら、「南ベトナム（ベトナム共和国）」に続けて、25字以上35字以内で記述解答用紙に記入しなさい。

